

事 務 連 絡 表

件名	第 4 回「東大路通歩行空間創出推進会議」
日時	平成 25 年 3 月 11 日（月） 15 時 15 分～16 時 15 分
場所	東山区役所大会議室（3 階）
● 開会 ～別府室長あいさつ～ ● 議事 ～議長あいさつ～ (1) 東大路通における交通量調査結果について (2) 平成 25 年度の予定について ～資料 1, 資料 2 説明（事務局・小西係長）～ (議長) 平成 22 年道路交通センサスは 11 月下旬に実施しており、今回の調査は交通量が平均的な 12 月に実施している。この結果の違いには、観光の要因が大きいと考えられる。 (副議長) 今回の調査ではとてもよい成果が得られたと思う。この結果をどのように理解して事業を進めていくのか、住民と時間をかけて検討していくことが必要である。 東大路通では自転車と歩行者が交錯する問題があるが、自転車に歩道を走らせるのは危険である。これはマナーの問題が大きいと考えられる。また、ビデオでも確認できたが、自転車の利用は中高年が多いことが特徴である。駐車車両、タクシーの乗降、荷捌き車両の問題があるが、周辺のコインパークの有無についても併せて考えるべきである。宅配業者でも、地区内の路地まで車で入らない方法を採用するなど、工夫され始めている。マナーによって解決する問題が多いので、このあたりを含めて、来年度に検討を進めてもらいたい。 (副議長) 渋滞には色々な要因があるが、交通が同じであっても、混んでいて捌けた台数が少ない場合と本当に交通量が少ない場合の 2 種類があり、これらは全く違う性質のものである。いかに混まないようにするのかうまく検討することが必要である。 (地元代表) 今回の調査では開晴小・中学校の子どもたちの登下校の様子が分からない。この場に校長先生方が来ていないことも疑問である。また、東山七条から東福寺間はどうなっているのか。来年度予算の 5 千万円は、誰の要望で決まり、どう使われるか教えてもらいたい。	

(京都市都市計画局歩くまち京都推進室・中村委員)

登下校についても平成25年度に検討したい。今回の会議は、昨年8月に策定した整備構想を受けて、補正予算として実施した調査の結果をお示ししている。来年度の予算額は、この会議での議論を踏まえ、必要な事業費を要望したものである。東大路通の東山七条から東福寺間については、この会議とは別に、交通バリアフリーの基本構想の中で、整備が位置付けられている。今後は、本構想と関連して進めていきたい。

(副議長)

ビデオの中で、自転車がバス待ちの歩行者に突っ込んだりする場面があり、自転車のマナー向上も重要であるが、東山安井などは、路線バスの乗降はほぼ観光客であり、バス待ちのマナーが悪い場合もある。歩くまちといいつつ、観光客が清水寺に最も近いバス停で降りるというのも問題である。観光客が分散して、歩いてもらえたらと思う。

(事務局・高畑課長)

交通局でも、バス待ち環境の改善に係る施策を検討している。観光客は、並ぶところや乗るバスが分からないなどの理由があるので、ご意見を改善に結び付けたい。

(議長)

調査結果のデータにより現状認識は深まったと思う。ただ、平均的な日という考え方は難しく、例えば、ヒストグラムで頻度をみる方法も必要な場合もある。今回の調査では、歩行者と自転車の交錯、荷捌き車両等が解決すべき問題として浮かび上がったと思う。

来年度に実施する調査の次の段階として、歩行空間をどう創っていくのか時間をかけて議論を重ねていくべきである。観光客のマナーという視点も必要である。通学、子どもの動きも把握した上で、観光なり、行動の誘導なども、ソフト事業として考えるべきである。

地元、関係機関の一層の協力が必要なため、よろしくお願いしたい。

● 閉会

～中村部長あいさつ～